

## わたぼうし新聞 第4号

発行者 羽咋市中央町フ169-2  
羽咋公民館内  
わたぼうし友の会  
発行日 1985年(昭和60年)8月15日

### 4号の特集「障害者にとって家族とは」

…… 虹 ……

土砂降りの雨がやんだら  
東の空に  
にじがかかった  
紅色のあじさいの茂みを  
時が 静かに 静かに  
過ぎて行く  
ほんの小さな  
わたしの愛よ  
遠くはるかな  
わたしの夢よ  
いくたび にじを見ただろう  
いくたび にじを見るだろう

## 《特集》 障害者にとって家族とは＝

### 家族は私の宝（たから）――私の家（族）――

在宅障害者

現在、我が家は明治生まれの両親、戦後生まれの兄夫婦とその子供たち3人、そして私の8人で構成されています。

私は3才の時、胸×カリエスと診断されました。当時、一番上の姉が17才、次姉が10才、兄は5才、その頃の事はあまり聞かされていないだけに大変だったことが思われます。末っ子で病気がちでしたから、おのずとしれたこと甘えん坊でわがまま、そして寂しがりや、姉たちが嫁ぐと聞かされる度、私は泣いたのを覚えています。どういう涙だったのか、今思うとたぶん姉をとられてしまう気がしたのでいないでしょうか。

姉、兄たちがそれぞれ家庭を持ち新しい家庭が生まれる。かくして居残り組？の私は両親と兄夫婦と同居。世間でいう小じゅうとと鬼千匹なのである。この小じゅうと、普段は縦横無尽にふるまい、困った事が起きる猫なで声を出せず。自分の責任で何をしてても何も言われなのです。がただ一つを除いて、というのは、私には自分の体力を考えずに行動するところがあって、そんな時「無理をしているんじゃない」と一言まず最初に義妹か次ぎは母と父の順にブレーキがかかります。近頃、監視者が両親から兄夫婦へとかわりつつあるようです。

一時は、自分がかごの鳥のような気がして早く独立したいと思ったものです。今はもうしばらくそのままでもいい、甘えられるうちは甘えていようと思うようになりました。それはまだ私にその力がないのと両親が安心するように思えるからです。

私は幼い頃から障害者ということで受けた屈辱、独りで涙することもあっても、家族には見せないようにしてきました。解ってもらえないと言うことも少しありましたが、悲しませなくなかったから。でも全て見通されていたのかも知れません。家族だから……私にとって大切な人たちなのです。

## 家より楽しい施設 施設利用者

僕は今、親から離れて施設に住んでいます。僕は家よりもここで生活している方が、よいと思います。前は施設にいるといやでいやでたまらなかったけど、だんだんそう思わなくなりました。なぜって施設にいれば友たちがいて楽しいです。それに先生に何でも話をすればよく聞いてくれて、まるで自分の兄さん、姉さんみたいです。家にいたって友たちもいないし、ひとりぼっちでつまらないです。時々、親の所に電話をしますけれど、ほとんど自分のことばかり考えています。でも、両親に感謝しています。

## いつまで続く施設生活？ 施設利用者

私は6才から29才まで施設で暮らし、ある事情で2年間は家族と暮らしていましたが、現在は青山彩光苑という更生援護施設に入所しています。

長い施設生活で一番感じることは、健常児（者）は家庭で親子で住むことが当然ですが障害児（者）は、小さい時から施設に入所させられ、家族と離れて暮らすことが平気で行われているのです。又、そうしなければ、やってゆくことができないのが現代社会なのです。（施設に入所、養護学校に入学することなど。）

施設に入所しますと、面会日とか、帰省期間にしか家族と会うことができないのです。それが何十年と続くのですから……。こんなことで健全な社会なのですか？障害児（者）も家族と暮らす必要があると思います。つまり、それを行うには、特定の地域に障害児（者）施設や養護学校という大きな建物を作らずに、一般の小、中学校のように各地域に通所施設を作り、できるだけ健常児（者）とのふれあいをもたせながら、機能訓練や勉強を行う必要があると思います。

私も、長い施設生活で一番感じるのは、いつまでこの生活をしなければならぬかということです。長い期間施設生活を送っていると、家族との会話も少なくなり、相手の思っていることがわからなくなりますので、早く親子がそろって暮らせる社会になることを願っています。

## 編集部より

青山彩光苑の入居者に「障害者にとって家族とは」と一言聞いてみました。その答えとして「気をつかわなくてもよい、空気みたいな存在、わからない、いこいの交流の場、悪いところをたしなめてくれる」。等々もはや家族の問題は、社会問題として現れてきており、これだけの紙面では語れない程に複雑化しています。家族形態を施設の人間関係、社会、職場等のかかわりに、あてはめ柔軟な発想で原点を探ってみるのも、おもしろいのでは？みなさんの感想をお待ちしています。

## わたぼうし文芸コーナー

### シクラメン

シクラメンは小さな樹海 モスグリーンの  
波紋の重なりから少しずつ もたげてくる  
つぼみは白鳥の頭 ねじれた花びらが少しずつ  
ほどけていくのは 生まれたての柔らかなつばさ  
スローモーな つぼみの力強さを  
心の底から吹きおこって来る風にして  
冬の窓べ陽だまりに ひらいたシクラメンの花  
パステル色の私のはばたき

### 短歌

地域住民・障害者

- ・夕映えに 染まりて広き 海原の  
波音響きて 空に吸わるる
- ・どの川の 流れに沿えば大海に  
行きつけるかも知らず流さる
- ・我が目には 見えぬ小さき虫を追う  
犬はしっぽを 太く振りつつ

### 詩

わたしから生まれる  
言葉たち 限りなく  
いとおいしい子供たちになれ  
翼や花びらになれ  
人になれ 愛になれ

### 大人になるまで

施設利用者

あなた まってて下さい  
大人になるまで 今は あたし  
泣いたりするわ あまえるわ  
でも いつかきっと  
あなたの夢を  
かなえられる時がくるわ  
だから あなたまってて下さい  
大人になるまで  
まってて下さい あきらめないで

## グループ紹介 『南陽園 フォークソングクラブ「つばさ」』

青空に はばたけ つばさたち

昭和56年の春、南陽園に自治会ができた機会に、園内にクラブを作ろうという話が持ち上がり、若者が集まりフォークソングクラブが出来ました。当時はギターを引ける人もいなく、ただカセットを聞くなどやっていたら、十数人いた部員も少しずつ減り始めました。その時顧問と相談し、どこかでギターを弾ける人がいないかと探していた時に、ニューコスモスファミリー（加賀市大聖寺青年団より生まれたフォークグループ）が見つかり、一緒に活動が出来るようになりました。その間、羽咋、松任わたぼうしコンサートに出演し、現在に至っています。

現在は、毎週月曜日の夜に、ニューコスモスと一緒に歌を歌ったり、詩を作ったり、充実したクラブ活動を行っています。もし、片山津へお越しの節は、時間がありましたら寄って下さい。

クラブ員数 6名 ニューコスモスファミリー 7名

## 祭りの後が大切 公務員

――やさしさを行動に――

今、私の手元に、4年前の国際障害者年全国キャンペーンの時に配布された小冊子があります。今日から、ここから、あなたから「愛、やさしさ、勇気、希望」と書かれた表紙をめくると、「やさしさを行動に」と大きく目に飛び込んできます。本当に「やさしさを行動に」をできた人は何人いるのでしょうか？又、あそころずいぶん意気込んでいた人たちは何処へ行ってしまったのでしょうか？そして、今年は「青年年」ですが、いづれの場合も熱病にかかったのと同じで時間が経てば皆忘れてしまうのです。始めから、そんなに期待はしなくても、何やかやとうまく乗せられて動くのが普通の人ではないでしょうか？1981年を一番冷たい目で見えていたのは、障害を持つ人たちではなかったのでしょうか？祭りの後の空しい感情を誰よりも知っているからだと思うのです。私は1981年を国際障害者年と知らずに南陽園のみんなと知り合いになりました。あとで知らされた時は「あまり騒いでほしくないものだ」と思ったものでした。「国際〇〇年」と銘打ったお祭り騒ぎがダメだと言うのではなく、それなりに効果はあるだろうけれど、その後どうするかというのが、皆の期待であり、悩みだと考えています。夢を見るだけ見させておいて現実に戻す方法が、好きにはなれないのです。じっくり地面に足をつけて動けることが最高だと思っています。障害を持つ人も、持たない人も、一緒にいられる空間があまりにも少ない様ですが、一度に社会が変わるものでもないし、変えようもないと思っています。今の生活をマイペースで歩むことと、次の世代へ何が残してあげられるのかと考えて行けば良いのだと思っています。口ではどんなにウマイことでも言えますから……

最後に、今一番感動しているのは、歌手の「高石ともやさん」が言っておられた「やわ

らかな心」という言葉です。やさしいと言えば軟弱にとられるし、強いというのも自分らしくもない、平凡な自分に一番あてはまるのは「やわらかな心」だし、また「やわらかな心」をいつまでも持ち続けたいということです。「やわらかな心」であれば「やさしさを行動に」移すことは、わりに楽に出来ることなのではないでしょうか？

## 近づく つくしコンサート (富山で会いましょう)

皆さん、つくしコンサートってご存じですか？身体にハンディを持った人たちの熱いメッセージにメロディを添え、人々に伝えるコンサート。今年で7回目を迎えるわけですが、毎年増え続ける仲間たちの中には富山県内はもちろん、北陸各県、新潟の仲間もいます。つきることなく送られてくる詩に、私たちは喜び、そして考えさせられることも多くあります。さて、私たちの活動は、毎週火・金・日の午後6～9時まで。それ以外は必ず番電話がお相手至します。その中で、交流会、キャンプ、ボランティア活動を行い、コンサートは一年のしめくりなのです。お互いが身近な存在になれるよう、理解し合えるようにと願いをこめ日々活動を続けています。しかし、現実的には、一年がかりの準備とあって、実行委員の数もそう多くはありません。メンバーも定着しているのはほんのわずか、それによって個人にかかる負担の大きさも問題になってきます。また、もっと多くの人たちから、たくさんの意見、希望等をいただきたいのです。今年は、9月23日（秋分の日）に富山県民会館にて行われます。まあ、とにかく一度富山へ来てみてください。意外に明るくて、元気あふれるつくしんぼうたちが、あなたを待っていますよ。地球に生きてる皆さんファイトー！

## ふれあいの中で子供は育つ！ 施設職員

私はしばらくの間、障害児教育を取り入れている保育園で仕事をさせてもらったことがあります。脳性小児マヒ、片目が失明、もう一方もほとんど見えない子など何人かの子供たちが、健常児と共に生活をしていました。最初は、この子供たちに合う、または同じ障害児たちの中で生活した方がいいのでは、ないかと思っていた私でしたが、それは日々を重ね一緒にいるうちに、いやそれでは、という考えに改めさせられました。健常児のやさしさに感動しました。ふれあいの中で子供たちなりに教えてあげたり、手伝ってあげたりする姿は、大人が押しつけても、教えても、身につかないものだと思います。そして、障害児もその気持ちを暖かく受け入れ、とても明るくふるまっていました。できない、わからないことなりに、一生懸命に取り組む姿は、その環境で身につけたものだと思います。この時期の環境が、これから先の人間をどう左右するか、ここに重要な要素が含まれていると思います。

私は、障害児保育にもっともっと力を入れ、子供たちのことを考えてあげれば、障害者とのふれあいも、もっと密になってくるものだと思います。

### — 現代用語解説 —      はりねずみのシレンマ

人と人の距離が近づけば近づくほど、お互いのエゴイズムで傷つけ合う度合いも高くなる。しかし、お互いに親密になりたい。このジレンマを言う。ある寒い冬の朝、二匹の山アラシがお互いを暖め合おうとして近づくが、お互いのトゲで相手を傷つけてしまう。そこで又離れる。しかし近づきたい。やがてある程度傷つけながらある程度暖め合うことができるような距離を発見した。というショーペントゥエルの宴活を引用してフロイトは人と人との間の愛と憎しみの両面性を発見した。

## ――本の紹介――

あなたのほほをぬらすこの一言「おかあさん、ごめんなさい」

わたぼうしコンサートより生まれた「お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい」を読みますと、あなたは必ず涙を流すでしょう。

この本の主人公であるやっちゃんは、重度の脳性小児マヒで寝たっきりの青年でした。もちろん話すこともできず、他人の質問に対しては、目で合図をし、コミュニケーションをしながら、「お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい」という詩を作り、コンサートで発表され、人々の胸を打ったのです。しかし、寝返りもできなかったやっちゃんは、顔を布団でふさがれて亡くなったのです。この本の中で、「ぼくさえ生まれなかったら、頭の白髪も、お母さんに対する冷たい視線もなかっただろう」という箇所は、胸にせまって来るものがあると思います。あなたも一度読んでみてはいかがでしょうか。

## ――みんなの声――

★1.2号共、一生懸命読ませていただきました。金沢で出来ない事を能登の方が頑張っているらしいので頭が下がり色々な方のお便りを読み、なつかしく思いました。

★サロンの、サークル的底の浅いものではなく、鋭く障害者問題を切り込んだ記事が増えればよいと思う。今の世の中障害者として、居心地が良くないでしょ。的な発言がないのが不思議です。

## 事務局だより

人生相談なんかで、中年の主婦が子育ても終わって「暇ができたんですが？」と言うと、回答者が「それならボランティアでもやっちはいかがです」。なんて答えているそうです。

生け花等の習いごと等の個人の趣味と同じレベルに見ているようですが、人々の生活、文化、生命を守ることにもっと深い認識を持たねばなりません。知的レベルがアップしたにもかかわらず、文化的には社会は退化しているのではないのでしょうか？

当新聞に対する皆様のご意見、ご希望をお待ちしています。なお、5号テーマ「健全者から見た障害者観」、6号テーマ「障害者にとって結婚、恋愛とは」を募集します。